

日本共産党松江市委員会機関紙

新しい松江

発行 日本共産党松江市委員会・松江市袖師町3-6 電話24-2456

消費税2桁の暴挙 天下の悪税 このままにできぬ

尾村県議、橘・吉儀・田中松江市議団ら 街頭から政治の風を吹かす



訴える尾村利成県議と松江市議団

10月19日「消費税10%増税許さない」と、尾村利成県議、松江市議団らが、京橋で訴えました。

吉儀市議が司会を務め、橋市議が、19号台風で甚大な被害に遭われた皆さんへのお見舞いと1日も早い復興を願い、避難所の改善を志位委員長が直接担当大臣に申し入れたことを報告。田中市議は、関西電力の原発還流疑惑は、菓子折りの底に金が忍ばせてあるなど、国民の電気料金が還流している問題であり、徹底して真実を明らかにすることを強調しました。

2号機の審査に3号機のデータを使うのは妥当か？ 田中市議が原発特別委で質問

9月20日、市議会原発特別委員会が開催され、島根原発2号機の新規制基準適合性審査の状況について調査が行われました。

当日は、中国電力から岩崎本部長、長谷川副本部長らが参加し、審査状況を説明しました。田中市議は、審査の中で規制庁から中国電力に対して厳しい指摘がされている点について質しました。

田中市議が指摘したのは、8月1日の適合性審査で、規制庁の職員が、「2号機の審査に3号機のデータを使うのは妥当性について」質問している部分です。地震の際、岩盤と2号機建屋が離れてしまうのか、それとも付着したままかを判断する諸要素について、「2号機下の岩盤のデータとして3号機下のデータが使われている妥当性を示すべき」との指摘です。

来年度予算の充実求めて 決算総括質疑より①

9月議会の、平成30年度の決算総括質疑で、会派を代表して橘祥朗市議が、6項目の事業の内容を問いました。3項目を紹介します。

①、ごみ袋を例に、発注は市内でも実態は県外大手ではないか。②、免許自主返納への支援が打ち切られたが、市民が必要としている制度で、復活を。③、太陽光発電を中心に、個人住宅への助成制度の継続、新庁舎・公共施設への設置など、再生可能エネルギーの拡大を求める。

執行部からは、①公共事業のうち建設関係は100%市内企業に発注、物品は準市内企業を合わせて90%発注している。市内企業を経由の場合でも地元企業の雇用や地域経済の活性化で地元へ還元している。②高齢者の事故件数は大幅に減少しており、今後は市内全体の交通事故防止、子どもへの安全対策や安全施設整備など取り組む。③新庁舎や公共施設での太陽光や雨水の利用、民間への補助など再生可能エネルギーの普及・拡大に努める、など答弁がありました。

「私、絵と結婚するの」

ちひろ生誕100年前進座公演



終演後、ロビーにて「ちひろ」と「善明」

10月16日、島根県民会館中ホールにおいて、前進座による「ちひろ」の公演がありました。前進座「ちひろ」松江公演を観る会（代表：竹下靖彦氏）が主催し、松江市教育委員会や松江市民劇場等の後援で実現したものです。

原案は松本猛、台本は朱海青、演出は鶴山仁です。舞台は、1946年5月の焼け跡が残る東京。つば広の帽子をかぶり大きなボストンバッグを持った「ちひろ」が、小さな新聞社の戸をたたたく場面から始まります。自分の過去の葛藤を抱え「絵と結婚する」との信念のもと、職場の上司や絵描き仲間とのふれあいの中で、自立していく「ちひろ」。自分がどのような境遇で育ったのか、あの戦争は何だったのかを自分に問いかけ、夫となる善明と出会い、自分が進むべき道を見つけて行く「ちひろ」の生き方が感動を呼びました。